立川綜合病院年報のご挨拶

2023 年から 2024 年にかけて医療環境は激動の時代に突入しました。新潟県中越医療圏も例外ではなく、あらゆる分野で影響が現れています。

昨年春から新型コロナウイルス感染症対応の緩和が始まりましたが、人口減少と少子高齢化、国家間戦争に端を発した物価上昇・医業費用増加、医師のみならず医療・介護に携わる人材不足が顕著となりつつあります。2024 年度は医療費抑制を主眼とした診療報酬改定、医師の働き方改革が本格始動しましたが、特に急性期医療にどのような影響がでるか、法人経営も含め不確定な変数が入り乱れている感があります。

昨年のご挨拶では、新潟県は人口あたりのコロナ感染死者数が全国でも最小であったことからも「厳しい冬からうららかな春へとなっていく気分でしょうか。」といったのも束の間、特に急性期医療においては厳しい冬に逆戻りの感があります。

2024 年 1 月 1 日の能登半島地震では長岡市も震度 6 弱でしたが、幸い法人各施設とも甚大な被害はなく、立川綜合病院ではヘリポートへのエレベーター含めトラブルはありませんでした。なお万一の場合病院入口のタクシープールが臨時のヘリポートとして使えそうです。長岡市東西道路の北陸道大積スマート IC への延伸工事も始まり、全線四車線化も視界に入っています。東西道路は大災害時新潟県中央部における交通網のかなめ、これに沿って法人 3 病院が位置しております。今後とも法人あげて大災害時を意識してハード・ソフトを強靭なものとしていく覚悟でございます。

昨年 9 月から立川綜合病院の消化器内科常勤医師不在となりましたが、幸い 12 月から昭和大学横浜市北部病院消化器センターから週 1 名、2024 年 7 月から週 2 名の応援を頂くことができました。誠に有り難く心強い限りです。さらに医師会はじめ救急輪番制を維持して頂いている急性期 2 病院に対しても誠に有難いことと感謝しております。当院の問題は新潟県全体と関連しているものと痛感しております。

さて、2023 年度も救急・急性期医療においては各センターはじめ各部署は引き続き高い評価を頂いており、悠遊健康村病院透析施設も腎センターと協働し、大災害時互いに補完できるまでになりました。将来的には県外での大災害時にも対応できればと妄想しております。

令和 6 年度、立川メディカルセンターでは交代を含め医師 19 名、看護職 43 名はじめ計 77 名の専門職員を迎えました。令和で最も多い入職者です。引き続き全職員にとって魅力ある元気な法人となるよう努力してまいります。

本年度も皆様にとって実り多い良い年になることを心より願い、年報のご挨拶とさせて頂きます。

令和 6 年 7 月 2 日

医療法人立川メディカルセンター

理事長　吉井　新平